

《第 468 回 (2019 年 11 月 14 日) 子どもの本の読書会記録》 参加者：10人

時間：10:00~11:30 場所：オーテピア 4 階集会室

✦ 私のおすすめのクリスマスの本 ✦

今月の読書会のテーマは、「私のおすすめのクリスマスの本」。好きなクリスマスの本を持ち寄って、みんなで紹介し合いました。1冊をじっくり語ってくれた方もいれば、1冊に決めきれないとたくさん本を持ってきてくれた方もいて、会は熱く盛り上がりました。今月号の土佐のわらべでは、読書会に参加したみなさんに持ってきていただいた本を紹介します。ぜひ読んでみてください。

『ちいさなもみのき』(マーガレット・ワイズ・ブラウン/さく, バーバラ・クーニー/え, かみじょうゆみこ/やく 福音館書店)…クリスマスの素敵な要素がすべて入っていて、心が安らぐ。

『ちいさな曲芸師バーナビー』(バーバラ・クーニー/再話・絵, 末盛千枝子/訳 現代企画室)…フランスに伝わる話。カバーをめくったら手触りのよい赤い表紙が現れる。

『人形の家』(ルーマー・ゴッデン/作, 瀬田貞二/訳 岩波書店)…人間の正義と悪を、人形の世界に置き換えて描いている。

『バーナデットのモミの木』(アンデルセン/原作, バーナデット/絵, ささきたづこ/訳 西村書店)…初めて読んだときラストに衝撃を受けた。

『子うさぎましろのお話』(ささきたづ/ぶん, みよしせきや/え ポプラ社)…サンタさんをだましてプレゼントを2回もらうなんて!!

『だれも知らないサンタの秘密』(アラン・スノウ/さく, 三辺律子/やく あすなる書房)…これ1冊があればサンタのことがすべて分かる。

『サンタクロースっているんでしょうか?』(フランシス・P・チャーチ/著, 中村妙子/訳, 東逸子/画 偕成社)…「サンタはいるの?」という子どもからの質問に対する回答に、心が和む。

『クリスマスまであと九日 セシのボサダの日』(マリー・ホール・エッツ/作・画, アウロラ・ラバスティダ/作, たなべいすず/訳 富山房)…図書館のクリスマスお楽しみ会で、ピニャータを実際にやってみたら盛り上がった。

『クリスマスのまえのばん』(ターシャ・テューダー/絵, クレメント・ムア/詩, 中村妙子/訳 偕成社)…いろんな訳で出版されているがこの本が一番好き。

『賢者のおくりもの』(オー・ヘンリー/文, リスベート・ツヴェルガー/画, 矢川澄子/訳 富山房)…クリスマス本来のとらえかたを、本を通して日本人にも体験してもらいたい。

『きのいいサンタ』(さとうわきこ/作・絵 金の星社)…捨て猫や捨て犬をほっとけず拾ってきちゃう、気のいいサンタさんの絵本。

『サンタさんありがとう』(長尾玲子/さく 福音館書店)…刺繍で描かれた絵本。明るくてかわいらしい。

『クリスマスの思い出』(トルーマン・カポーティ/著, 村上春樹/訳 文芸春秋)…金銭的なものではない豊かさを感じられて、何度でも読み返したくなる。

『飛ぶ教室』(エーリヒ・ケストナー/作, 池田香代子/訳 岩波書店)…クリスマスに実家に帰ることができなくなった少年の心に感情移入してしまい泣ける。

その他、紹介された本 (出版社50音順)

★『急行「北極号」』『サンタのなつやすみ』(あすなる書房)★『サンタクロースの11かげつ』(岩崎書店)★『お祭りにいけなかったもみの木』『ぎんいろのクリスマスツリー』(偕成社)★『クリスマスってなあに』(講談社)★『女の子はサンタクロースになれないの?』(国土社)★『花びら姫とねこ魔女』(小学館)★『もみの木』(新教出版社)★『教会ねずみのクリスマス』(すぐ書房)★『サンタさんのトナカイ』(徳間書店)★『アンナの赤いオーバー』『世界で一番の贈りもの』(評論社)★『大きな森の小さな家』『大草原の小さな家』『きれいなかざりたのしいまつり』『クリスマスのちいさなおくりもの』『さむがりやのサンタ』(福音館書店)★『サンタクロースの冒険』(扶桑社)★『サンタクロースのすてきな道具の絵本』(ブックローン出版)★『やかまし村のクリスマス』(ポプラ社)★『おもいでクリスマスツリー』(ほるぶ出版)

次回 12月12日(木) 10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『貸出禁止の本をすくえ!!』 アラン・グラッツ/著, ないとう りみこ/訳 ほるぶ出版